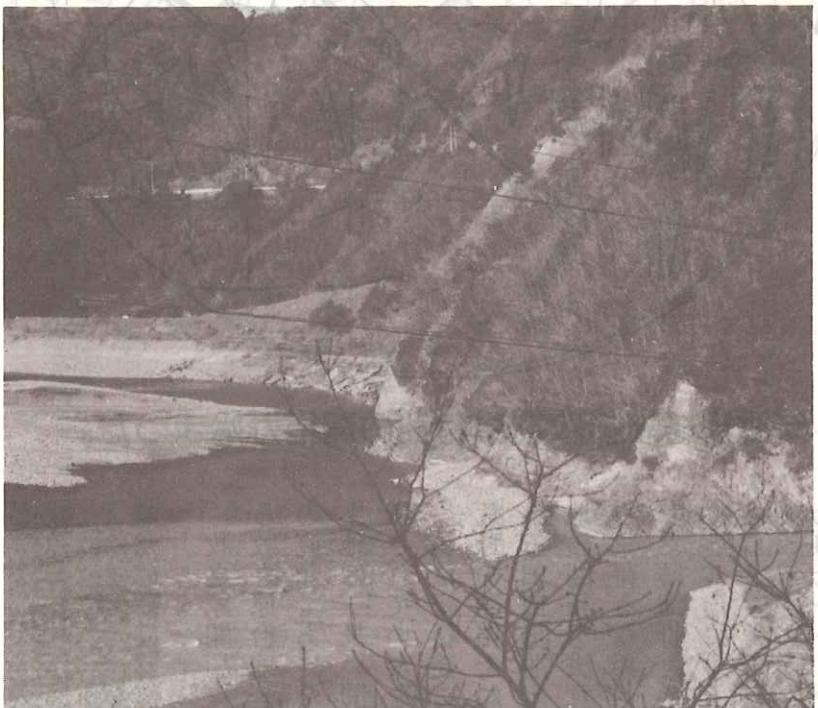


シリーズ No. 1



牧之原だより特集号 昭和57年3月1日

発行

牧之原畠地総合整備土地改良区
島田市中央町26番1号
☎ <05473> 6-0984

**特集号に
よせて**



牧之原畠地総合整備土地改良区
理事長 加藤太郎

ることと存じます。

国家的な厳しい予算状況の中に
もかかわらず、八年にわたって牧
之原に投じられた事業費は、九十
七億余円におよび、基盤整備が着
々と進められて台地の様相も一変
しつつあるのであります。

国営事業も、導水トンネル、送
水管埋設等順次施行され、用水導
入のための仕事を進めていくわけ
であります。

県においても諸般の状況を慎重
に考慮し、今後は基盤整備と平行
して徐々に水の受皿づくりの手筈
を整えようとしております。

そこで、今一度じっくり腰をす
えて牧之原の水について考えてみ
ることは、私たちに課せられた使
命のひとつであろうと思います。
このたび県牧之原農業用水建設
事務所のご協力を得ながら、「水」
に関する特集号を数回にわたって
お送りすることといたしました。

待望の当畠総
事業も、国、県
をはじめとする
関係各位の懸命
な努力にもかか
わらず、国家的
な厳しい予算状
況から思うにま
かせず、皆様に
いろいろご迷惑
をおかけしてい

牧之原台地の未来を展望し、か
つ、創造しようとする組合員諸賢
の座右において、ご一読いただけ
れば誠に幸いります。

台地に第一の夜明けを

牧之原開拓史によれば、広大なる牧之原台地一円は古くから幕府の直領であったが、その殆んどの土地は、長い間荒れ放題のまま放置されていたといわれます。



明治維新後牧之原台地の開拓が始まった。

明治維新後この牧之原に入り、荒野の開拓になつた中心人物である旧徳川藩士中条景昭は、この地の開拓を決意してその実施の許しを得るため、開拓決定の断を下した勝海舟との会話の中で、「聞くところによると、遠江国の金谷原は、ぎょうかく不毛（石が多く地味がやせて作物が育たない）土地で水路に乏しく、民は捨てて顧みざること数百年に及んでいます。云々」といわれたそうであります。

このように、明治以前には人も

殆んど住まなかつたこの荒野が、多くの先人の手によって開拓され、今百年の歳月を経て見渡す限りの大茶園が形成されたのであります。この台地に生き、苦闘の末茶園農業にとり組んできた多くの農民

たちは、台地の裾を豊かに流れる大井川の水を見て、なんとかしてこの台地に引くことができないものであります。

牧之原台地に第二のれい明期を迎えるとしている時、先輩の残された遺産な財産をより大きく生かし、孫子の代に何を引きつぐべきかは、今に生きる私達に与えられた大きな課題であり、果さなければならぬこととめと、進むべき道を見失うことのないようになります。



よみがえ 甦る

水について 特集号

明治の先達が開拓し育てた「牧之原台地」は、今や全国的な「茶」一大産地として有名になり、私達の生活を大きく支えてくれています。

しかし、この牧之原台地の當農の実態は、「天水」主体の農業であり、栽培作目もおのづから制約される當農形態を強いられてきています。

極論すれば「水」に関する限り、今尚不毛の地といえるのかもしれません。

「水」それは、すべての作物栽培の基であります。

水の確保：「畑地用水の確保」は、安定した農業經營にどうしても欠かせない絶対的な条件ではないでしょうか。



現状の用水は「天水」に頼らざるをえない。

農業基盤整備によつて徹底した合理化、省力化をはかり、消費者のし好レベルに合わせた作目えの転換や高品質化がすすめられ、益々産地間競争が激しくなつてきて、現在、牧之原だけがいつまでも水なしでいられるとは思えませ



水の利用、畑地用水の上手な利用によつて作業の省力化を図り、或いは經營規模を拡大し、更には、より市場価値の高い作物を栽培し、當農の安定、農業經營の合理化に取り組むべき時期であろうと思ひます。

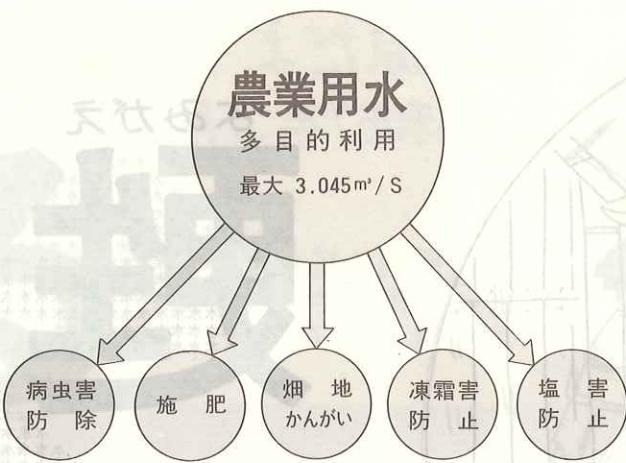
現在、国や県、関係市町では、この牧之原台地に多目的利用でのきの畑地用水を導入し、牧之原が将来にわたつて安定した農業經營を図ることができるよう計画し、既に導水管の埋設工事が進められています。

畑地用水については、効果や利用水方法などに、なお疑問をお持ちの方もあろうかと思ひます。この牧之原だより「特集号」では、畑地用水施設の効果など実際例をご紹介し、皆様方と一緒に畑地用水の必要性を考えていきたいと思います。

長島ダムと 用水の多目的利用

長島ダムは、多目的ダムとして建設省が既に百四億円の事業費を投入し、着々と建設の準備を進めています。

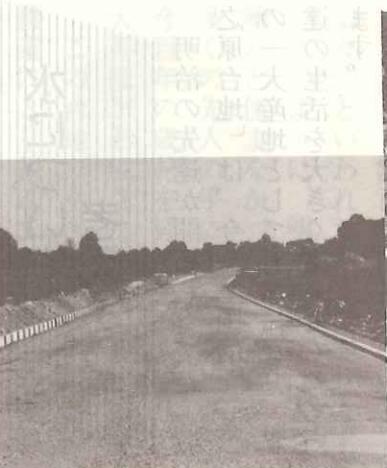
このダムが完成すると、牧之原農業用水事業と、志太、榛原、小笠三地区の広域水道事業の水源となり、農業用水として利用できる水量は、一秒間に三、〇四五トンで、左に掲げた図のような目的に利用することができます。



▼金谷町神尾地先の導水トンネル(斜坑)



▲菊川町半済のモデル圃場



▼第8号幹線農道

国が実施する仕事は!!

県が行なう事業は

長島ダムを水源とする用

水は、中部電力の発電送水

管を利用して、

川口発電所で放流された水

を取水することになります。

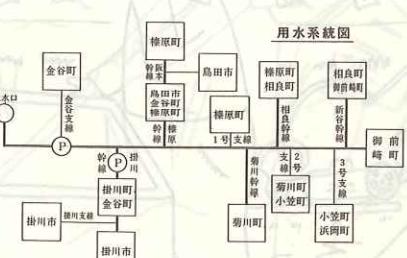
延長三百二十九キロメートルの農道整備や排水路、及び農地造成などを実施

することとなり、台地のあちこちで工事が行なわれています。

導水路、揚水機場及び幹、支線水路を建設し、図に示すように各受益地へ送水されることになります。(五十六年度までに、二十億一千四百万円を費やして、導水路、

及び幹線水路の一部が施行されています。)

用水系統図



長島ダムを

水源とする用

水は、中部電

力の発電送水

管を利用して、

川口発電所で放流された水

を取水することになります。

延長三百二十九キロメートルの農道整備や排水路、及び農地造成などを実施することとなり、台地のあちこちで工事が行なわれています。

各事業所等の機構

(57.2.1現在)

関東農政局

牧野原農業水利事業所

(3課1支所7係~21人)



静岡県牧之原

農業用水建設事務所

(2課2係~17名)



牧之原畠地総合整備土地改良区事務局

(3課6係~12名)

